



市長 からの 手紙

74 小江戸蔵里の昭和蔵

産業観光館「小江戸蔵里」の昭和蔵が、今年3月10日にリニューアルオープンしました。以前は、地元野菜などを販売する場所でしたが、改修により、埼玉県内にある35の酒蔵(造り酒屋)すべての蔵の日本酒が試飲でき、かつ購入できる「ききざけ^{どころ}処」となりました。

「ききざけ処」の特色は、日本酒の自動販売機により、500円で購入する専用コインで、埼玉県産地酒が「利き酒」できることです。大きな自動販売機が4台並び、35銘柄の酒蔵の地酒をおちょこ1杯ずつ販売しています。また、自分の気に入った地酒(四合瓶またはワンカップ)をその場で購入することもできます。

日本酒の生産量について調べると、1位は兵庫県、2位は京都府で、新潟県、秋田県に続いて埼玉県は5位の生産量を誇っています(平成27年調べ)。あまり知られていませんが、埼玉県には35もの酒蔵が、それぞれ個性ある酒を

生産し、地酒として健闘しています。

「小江戸蔵里」では、今、海外でもブームとなっている日本酒、それも埼玉ならではの地酒を、1か所で楽しめるというコンセプトで、「ききざけ処」を開設しました。

「ききざけ処」をつくるにあたっては、埼玉県ならびに埼玉県酒造組合、埼玉地酒応援団の全面的なご協力をいただきました。蔵里の指定管理者である(株)まちづくり川越が酒類販売免許を取得して、この3月のオープンが実現したものです。「ききざけ^{みそ しょうゆ}処」には、埼玉の地酒のほか、地元の味噌、醤油などの発酵食品、日本酒を使った化粧品等も置いてあります。また、試飲のおつまみとなる一品料理や甘酒ソフトクリームなども販売し、子どもからお酒を飲まない大人まで楽しめる場所となっています。

小江戸蔵里は、もとはJALの国際線でも提供された「鏡山」酒造の酒蔵だった建物です。歴史を感じさせる酒蔵の建物が、再び日本酒の香りが漂う場所としてにぎわうようになりました。

小江戸蔵里の「ききざけ処」が、多くの観光客そして市民の皆様にも末永く愛される場所として、まちの大きな「にぎわい処」になってくれるものと期待を寄せています。

川越市長 川合善明

ともに支え合い、暮らししていくまち 1

障害者福祉課 TEL 224・5785

Fax 225・3033

市では、すべての人が、等しく基本的人権を持つ個人として尊重される「自分らしく、よりよく生きる：自立と共生のまちをめざして」を基本理念とし、障害者施策の充実に取り組んでいます。このコラムでは、障害について正しく知り、理解を深めてもらうため、さまざまなことを紹介していきます。自分にできることを一緒に考えていきましょう。

視覚障害について

視覚障害のある人の見え方は、その人によって「全く見えない」「ぼやけて見える」「中心または周りが見えない」などさまざまです。そのため、見え方によって必要な手助けも異なります。困っている様子があれば「何が必要なのか」まずは、声を掛けることが大切です。

声を掛けたら、どのような手助けが必要か確認してください。

■声掛けのポイント

- 名前を言いましょ
- 遠くではなく、そばに寄って前方から声を掛けましょ
- 大きな声で声を掛けないようにしましょ

■点字ブロックは道しるべ

歩道には、視覚障害のある人が安全に移動するために点字ブロックが設置されています。点字ブロックの上に自転車や看板を置くと、視覚障害のある人の移動を妨げてしまいます。

少しの心遣いが視覚障害のある人の安全につながります。皆さんにできることから始めましょ。

